



## (ISC)<sup>2</sup>ワークフォース調査：脅威が進化していく中で、アジア太平洋地域(APAC)のセキュリティ専門家はグローバル平均よりもテクノロジーспロールを懸念

*新規セキュリティベンダーを避け、спロールへの対抗手段としてのアウトソーシング*

香港－2015年4月16日－世界最大の情報&ソフトウェアセキュリティプロフェッショナル認定資格制度提供をし、10万名以上のメンバーを保有している非営利団体である(ISC)<sup>2</sup> (アイエスシースクエア)は、本日、ブーズ・アレン・ハミルトン(Booz Allen Hamilton)、サイバー360ソリューション、NRIセキュアテクノロジーズの協賛のもと、フロスト&サリバ( Frost & Sullivan)が実施した、グローバル情報セキュリティ人材実態調査 Global Information Security Workforce Study (GISWS)の結果を発表しました。14,000名以上の情報セキュリティ専門家への調査では、全体の回答者の3分の2が、複数のセキュリティ技術、しばし「спロール」と呼ばれているものの台頭に懸念を持っている。アジア太平洋地域の回答者は、グローバル平均より、このспロールへの懸念を示している。既存ベンダーの契約が失効する以外は、新規セキュリティベンダーの利用を避け、спロールに対抗する為の手法としてアウトソーシングをすることを勧めている。

報告書は、セキュリティ支出は技術、人材及び訓練の全分野で増加していることを示している。さらに、企業がツールや複数のセキュリティ技術に多額の投資を計画していると指摘している。しかし、回答者の3分の2は、既存のセキュリティプラットフォームの削減を実施することなく、セキュリティ技術を継続的に増加することが、セキュリティチームの有効性と効率性の重荷になるであろう“テクノロジーспロール”と呼ばれる新現象であるとも指摘している。これと、これ以外の多くの雇用マネージャーが直面する他の挑戦により、45%が必要な人員確保に苦労しており、新規セキュリティ製品・サービスの購入を遅らせ、また同時にアウトソーシング、マネージド&プロフェッショナルサービスや、クラウドサービス利用の増加が起きていることも明らかにしている。全てのアジア太平洋地域の回答者の中でも、特にインド企業では、5人の回答者のうち2人がインフラのспロールに最大の懸念を保有していることが分かった。

「7年前に最初のワークフォース調査以来、私たちは情報セキュリティにおけるプロフェッショナル不足を指摘し続けてきました。2015年の調査では、企業や組織が脅威対処への苦労が増加し、エラーを避けることが出来なくなっている中で、人材不足が顕在化してきていることで、セキュリティ運用への負荷増大が顕著になって来ており、サイバー攻撃からの回復により時間がかかってしまっていることが明解になりました。」と(ISC)<sup>2</sup>アジア太平洋、マネージングディレクターであるクレイトンジョーンズ氏は語ります。また同氏は、「情報セキュリティ対策への支出が、本調査開始以来、最大と予測されているが、セキュリティソリューションの有効性は、それらを扱う人にかかっていると考えられます。」とも語っています。



「本調査の結果が示すように、セキュリティのプロフェッショナルは先進国においても十分ではなく、今後急速にサイバー化が進むであろう発展途上国においてもその不足が示唆されている。人材は急に育成できるものではない。政府、民間企業、業界団体などが将来を見据え戦略的にプロフェッショナルを養成する必要がある。」とNRIセキュアテクノロジーズ社、フェローの菅谷光啓氏は指摘します。

調査からの主要なポイントは：

- ほとんどの場合、アプリケーションセキュリティのスキヤニングは、実運用導入後にしか実施されていない
- フィッシングが、ハッカーに使われるテクニックのトップである
- 45%の回答者が、セキュリティ技術への投資増加を予測しており、これは2004年の調査開始以来、最大のパーセンテージとなっている
- 全体の5分の一の回答者が、システムやデータへの違反が発生した場合の修正までの時間は1日以内になっていると指摘している。これは、2011年の調査で、3分の一の回答者が、同様の回答したことに比べて、かなり減少していると言える
- トレーニングや教育は、クラウドコンピューティング、BYODやインシデントレスポンスにおいて必要とされている
- 社内におけるスキル不足が、アウトソーシングの最大の理由となっている

本調査&前回までの調査から分かる継続的に指摘されるセキュリティトレンド：

- フロスト&サリバンは、来年1年間で、194,549名の情報セキュリティ専門家の増加が見込まれ、これは2014年から5.7%の増加であると指摘している
- 事業環境による追加人材採用が出来ない現状と、質の高い専門家不足により、情報セキュリティ人材不足の傾向性は広がっている
- アプリケーション脆弱性とマルウェアが、3調査連続で最大のセキュリティ脅威として特定されている
- 情報セキュリティ専門家は、自身の職及び継続的に上昇する給与に満足している

2015年のGISWSは、Webベースの調査を通じて2014年10月の間で12月に実施された。2004年の最初のリリース以来、本調査では、情報セキュリティ専門家の意見を評価し、情報セキュリティ業界における重要なトレンドや機会に貴重な視点を提供している。同時に、賃金体系、スキルギャップ、トレーニング要件、企業の雇用慣行、セキュリティ予算、キャリアアップの現状や、企業や雇用マネージャー、情報セキュリティ専門家にとって有用である情報セキュリティに対する企業や組織の態度についても明解な理解の提供を目的としている。



2015年GISWS報告書は下記にてダウンロード：

<https://www.isc2cares.org/IndustryResearch/GISWS/>.

(ISC)<sup>2</sup> と (ISC)<sup>2</sup> Foundation に関しては以下：

<https://www.isc2.org/aboutus/default.aspx>

[www.isc2cares.org/about](http://www.isc2cares.org/about)

#### フロスト&サリバンとは

フロスト&サリバンは、企業の成長パートナーとして、今日の市場における参加者の成功可否を決めるための世界規模での挑戦や、関連性の成長性のある機会に対応する為の先見の明のある技術革新を、顧客とともに、活用するすべを創造しています。50年以上、グローバル100レベル企業、新興企業、公的機関や投資コミュニティに成長戦略を策定しています。あなたの組織は、顧客のダイナミクスの変化や新興国に対抗するための、業界における統廃合、破壊的技術、競争激化、メガトレンド、最適慣行の打破などの意味深い波への準備ができていますか？

# # #

© 2015, (ISC)<sup>2</sup> Inc. (ISC)<sup>2</sup>, CISSP, CSSLP, ISSAP, ISSMP, ISSEP, CAP, CCFP, SSCP and CBK are registered marks, and HCISPP is a service mark, of (ISC)<sup>2</sup>, Inc.

#### メディアコンタクト

キティ・チャン (Kitty Chung)

(ISC)<sup>2</sup> Asia-Pacific

[kchung@isc2.org](mailto:kchung@isc2.org)

+852 2850-6989